



## 「間違いを認めること」の大切さ

大宝 凌（諸口教室）

はじめまして。大宝凌と申します。現在は、大阪公立大学工学部に通い、電子工学について学んでいます。今年度の6月から開智総合学院諸口教室に非常勤講師として勤務しています。私はカイチに小学6年生から中学卒業までの4年間お世話になりました。カイチで勉強面・精神面ともに手厚いサポートをしていただき第一志望の高校に合格することができました。その時の塾の雰囲気がとても気に入ったため、今もこうしてバイトをさせていただいています。

さて、今年も月日はあっという間に過ぎ去り、もう2月となりました。受験生は私立入試を迎える頃だと思えます。2年生は1年後に自分が志望校を決定して、自分が志望校に足を運び、

試験問題を解いている姿は想像できていますでしょうか。受験というのは間違えると、減点されてしまい、合格から遠のいていきます。それによって、みなさんは、問題を間違えることを恥とっていないでしょうか。ここでは、自分が高校受験、大学受験を通じて感じた「間違いを認めること」の大切さについてお話ししようと思えます。

私は、中学生のころは間違えることは恥ずかしいことだと思っていました。このように思っている中学生も少なくないと思えます。正直に言うと、間違いを認めることを避けて、ケアレスミスならば丸でいいやと考えていた時もありました。さらに、問題を解けなかった自分に対して、「もっと頑張らなければ」と焦りを感じ、間違いを認めることに恐怖を感じていました。こうして、間違いを隠そうとする悪循環にとらわれていました。

しかし、ある時、その「間違い」をきちんと認めることが、自分の成長に繋がると気づきました。数学の模試の過去問を解いたときに、先生に「間違えた時はなんで間違えたのかをはっきりさせろ」と言われて、冷静に分析してみました。「移項する時

に符号を入れ替えなかった」、「問題文を読み間違えた」などです。これによって、次第に自分の勉強方法というものが変化して、同じミスを繰り返さないように意識するようになりました。最初は間違いを認めて分析するのは抵抗がありましたが、実は最も効率的であり、確実な成長に繋がるということに気づきました。

弱さを認められることが本当の強さであると思えます。間違いは悪いことではなく、成長のチャンスであるということを知っていてほしいと思えます。私は受験というのは間違いを恐れずに挑戦する場であると考えています。自分の弱点を見つけることができれば、それは成長への第一歩になるでしょう。間違いを認めて、次回に活かすことが最終的に合格に近づくと思えます。間違えても恥ずかしがらず勉強に取り組んでほしいです。

最後に、教室で見かけた時は気軽に話しかけてもらえると嬉しいです。まだまだ未熟者ではありますが、勉強の質問や進路相談など、お役に立てるように頑張りますので、よろしく願います。



## シルバのちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE Silvestre Medelin (Talking Kids)

### A Perspective from a Filipino English Teacher in Japan 日本におけるフィリピン人英語教師の視点

The Philippines is celebrated for its warm hospitality, vibrant culture, and stunning landscapes which stands as a testament to resilience and adaptability. As a Filipino living and working in Japan, I often reflect on how our cultural identity and socio-economic challenges shape our global presence, particularly in fostering relationships with other nations. As I went back home last winter holiday I was reminded about Filipino culture. It is a rich tapestry of indigenous, Spanish, American, and Asian influences. Traditions such as the Sinulog, Bayanihan, Ati-Atihan, and Pahiya festivals showcase our love for celebration and community. Luckily, having seen some them was a remarkable experience which is always cherished where ever I am. I was able to enjoy Filipino cuisine—highlighted by dishes like adobo, sinigang, and lechon—reflects the diversity of our heritage. I've noticed a keen curiosity among the Japanese about Filipino culture, though their understanding remains limited. This underscores the



need for Filipinos abroad to act as cultural ambassadors, sharing the beauty of our traditions and values. This value resonates strongly, even among overseas communities, where Filipinos come together to support one another. During the time at the airport, I came to such realizations. Economically, the Philippines has made notable strides, yet challenges persist. A significant portion of the population still lives below the poverty line, prompting many Filipinos to seek opportunities abroad to support their families. The Philippines' status as one of Asia's largest English-speaking nations creates opportunities for Filipinos to work abroad in teaching, healthcare, and customer service roles. Overseas Filipino Workers (OFWs) play a critical role in the nation's economy, with remittances forming a substantial share of GDP. In Japan, Filipinos are highly regarded for their linguistic skills and cultural sensitivity. Strengthening this connection through cultural exchanges and partnerships could further enhance mutual understanding and collaboration. As an English teacher in Japan, I have witnessed the respect earned of Filipinos for their work

空港で過ごしている間、私はそのようなことに気づきました。経済的には、フィリピンは目覚ましい進歩を遂げましたが、依然として課題は残っています。人口のかなりの部分が依然として貧困線以下の生活を送っており、多くのフィリピン人が家族を養うために海外での機会を求めるよう促しています。フィリピンはアジア最大の英語圏の1つであり、フィリピン人が海外で教育、医療、カスタマーサービスの職務に従事する機会を生み出しています。海外のフィリピン人労働者(OFW)は、国の経済において重要な役割を果たしており、送金はGDPのかなりの部分を占めています。日本では、フィリピン人の語学力や文化的感受性が高く評価されています。文化交流やパートナーシップを通じてこの繋がりを強化することで、相互理解と協力がさらに強化される可能性があります。私は日本で英語教師として、フィリピン人の労働倫理と適応力に対する尊敬の念を目の当たりにしてきました。しかし、愛する人と離れ離れになり、外国の文化を乗り越えるという私達の犠牲は、より良い未来を追求する背後の苦悩を痛烈に思い出させる役割を果たします。通勤中に、公共交通機関での電気自動車の使用や、フィリピンのメガワイドコンストラクションと東急建設、日本の飛鳥コーポレーションの合併事

ethic and adaptability. However, the sacrifices we make—being separated from loved ones and navigating foreign cultures—serve as a poignant reminder of the struggles behind the pursuit of a better future. I was commuting when I noticed several improvements on transportation services which includes the use of electric vehicles for public transportation and the ongoing construction of the first subway through the joint venture of Philippines Megawide Construction and Tokyu Construction and Tobishima Corporation of Japan. This will alleviate the heavy traffic in Metro Manila during the rush hours which is expected to be operational in 2029. Bridging the cultural and economic gap between the Philippines and Japan requires deliberate efforts. Initiatives such as cultural festivals, educational exchange programs, and joint economic ventures could foster deeper ties. According to the recent article in The Japan News, “the Osaka prefectural government plans to have all prefecture-run high schools sign sister-school abroad to let 20 students per school study abroad for a short period of time. Philippines is one of the countries where these high school students will go to enhance their English skills”. By combining Japan's technological expertise with Filipino ingenuity, both nations could achieve remarkable innovations that benefit their people. As a Filipino in Japan, I carry with me the stories, struggles, and triumphs of my homeland. By sharing our culture and highlighting the challenges we face, I hope to inspire greater appreciation and understanding of the Philippines among my Japanese peers. Together, we can build a relationship founded on mutual respect and shared aspirations for a brighter future.



業による最初の地下鉄の建設など、交通サービスの改善がいくつかあることに気づきました。これにより、2029年に運用が開始されると予想されるラッシュアワーのメニャ首都圏の交通渋滞が軽減されます。フィリピンと日本の文化的・経済的ギャップを埋めるには、慎重な努力が必要で、文化祭、教育交流プログラム、共同経済ベンチャーなどのイニシアチブは、より深い関係を育む可能性があります。最近の日本のニュースの記事によると、「大阪府は、東営の全高校が海外姉妹校を締結し、1校あたり20人の生徒が短期間留学できるようにする計画だ」とのことです。フィリピンは、これらの高校生が英語力を高めるために行く国1つです。日本の技術力とフィリピンの創意工夫を掛け合わせることで、両国は自国民に利益をもたらす目覚ましいイノベーションを実現することができま

す。日本に住むフィリピン人として、私は故郷の物語、闘争、そして勝利を携えています。私達の文化を共有し、私達が直面している課題を強調することで、日本の仲間達にフィリピンに対する認識と理解を深めてもらいたいと思っています。私達は共に、相互尊重と明るい未来への共通の願望に基づいた関係を築くことができます。

発行／株式会社 開智総合学院 〒536-0004 大阪市城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI201 TEL.06-6939-0008

生徒と保護者と先生の共有ニュースレター

# Growing

February 2025  
Vol. 149  
毎月10日発行

【本部】 城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201 TEL.06-6939-0008	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011
【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563	【カイコ】 城東区今福西 3-4-9 TEL.06-6180-6565



高木 秀章（塾長）

## 公立入試「諦めない心」が合否を分ける



このGROWINGが皆さんの手元に届くころには、私立受験が終わり結果も出ている頃だと思います。今は、緊張がほぐれホッと一息ついていると思いますが、皆さんも知っている通り、一カ月後に、公立入試が待っています。私立入試は中学の先生と高校の先生による事前相談という安全ネットがある受験です。しかし、公立入試は本番次第。私立無償化で競争率が下がっても、人気校では倍率が1.4~1.5倍、3人に1人が不合格になる、内申がいくら高くても本番の試験で結果が大きく左右されます。

公立入試に挑むにあたって、当たり前のことですが、合否を決めるのは、模試の偏差値ではなく「当日の点数」であることです。

同じ志望校を受験する人達は、偏差値で2~3程度の差はありますが学力は拮抗しています。ちなみに、進研模範で偏差値62と65の人の差を素点で換算すると15点~20点程度。1教科3、4点です。満点400点の公立入試で換算すると1教科2、3点。つまり1問正解するかどうかの差です。

公立入試問題は記述や英語のロングリスニングなど、全体的に問題量が多くスピード重視でクセが強いのが特徴です。ここからは、公立入試問題の傾向と対策を徹底し、対応していくことで偏差値差をひっくり返せる可能性は十分あります。

これが、公立入試の恐ろしさでもあり、おもしろさです。

各教室では毎週土曜日に公立高校の過去問題で大学予想模試が実施され、翌月曜日には内申が考慮された状態で合格ラインとの点数差が発表されます。もしかすると周りとはどんどん合格点を取り、自分だけが取り残されることもあるかも知れません。不安で心が揺れるかも知れません。

でも、不安を感じるのは現実を見つめている証拠です。合格点と今の自分との実力差を感じているのです。そんな時は落ち着いて、その差をどのように埋めれば良い

のか、具体的にどのような努力をするべきなのかを考えましょう。

合計の得点差が20点なら1教科あたりは4点。つまり各教科の正答数を1、2問増やせば合格点に到達できます。時間配分を整理し、見直し箇所を事前に決めてケアレスミスを減らすだけでも埋められるかも知れません。もしかしたら、暗記の定着が薄れている単元で間違っただけかも知れません。それならば、その単元のWINPASSで1時間復習すれば点数は伸びます。

ここから先は「諦めない心」が合否を分けます。いくら模試の偏差値が高かろうと、私立でレベルの高い併願校に合格しようと、入試は当日点数を取った人が合格します。最後の最後まで諦めず絶対合格してやると、公立入試問題を攻略し続けた人が最後の最後に合格を手に入れます。

皆さんはここまで頑張ってきました。カイチは決して楽な塾ではなかったはずですが、先生達は鬼のように怖いし、定期テスト前には毎日自習室、直前の土曜日には9時間の自習があり、夏期講習には膨大な量の小テストに追われました。今年は、夏と年末に勉強合宿があり、講習会でヘトヘトの中、みんなで頑張りました。拳句の果てには、私立入試の前から、公立対策が始まり、大学予想模試で休む間もなくプレッシャーがかり続けます。

辛かったと思います。でも、みんなはその辛さ乗り越えて今ここにいます。あなた達は努力家で強い人間です。あなた達は間違いなく優秀です。残り1カ月。たった1カ月。せっかくここまで来たのだから、持てる力を絞り出して、合格を掴もう。

「受験が全てではない」と言う人がいます。そんなことはみんな分かっているはずですが。受験の合否で人生は決まらない。でも、「今、ここ」を頑張れば自分であるかどうかで、自分に対する自信が変わります。最後の最後まで頑張り抜けたという自信こそが、君達の将来を拓く力になります。

先生達も、全力で皆さんをサポートします。必ず第一志望に合格しよう。

<保護者の皆様へ>

私立入試お疲れ様でした。保護者の方におかれましては、自分事でない分、心配を募らせておられると思います。「『親』という字は、木の上に乗って見ると書く。親はいつも高い所からみんなのことを心配して見ているんだ」と昔、小学校の先生が教えてくれました。まさに親は子供が成長し自立していく過程を、見守ることしかできません。しかし、その愛情ある見守りがあるからこそ、子供達は受験という人生の岐路に思いっきり挑めるのだと思います。

ここから、受験勉強は更に厳しい公立受験へと向かいます。毎週の予想模試で不安定になることもあると思いますが、目一杯の愛で彼らを見守り励ましてあげてください。彼らが心身ともに休める場所はご家庭です。あと1カ月、私達も精一杯指導してまいります。心配事などありましたら遠慮なくご相談ください。

### カイチからのお知らせ

- 2月10日(月)は私立高校入試です。皆さんの健闘を祈っています。
- 2月8日(土)・15日(土)・22日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4~新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。
- 2月9日(日)は珠算上級検定、2月16日(日)は珠算段位検定です。みんなしっかり練習しよう。
- 3月12日(水)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月21日(金)です。受験生のみならず、最後の最後まで頑張ろう。
- 3月11日(火)より新年度授業がスタートします。



## Focus



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

カイチ予備校諸口教室・  
カイクベ諸口教室が完成しました!

川西 久志(諸口教室)

諸口教室の川西です。節分を過ぎ厳しい寒さが続きますが、皆さん体調にはくれぐれも気を付けてください。私達はとにかく今は受験生達の指導に全力投球しています。このGROWINGが皆様の所に届く頃には私立の結果が出てくる頃だと思います。心配があれば遠慮なくご連絡ください。



▲諸口5丁目サンディーの横に新校舎が開校します

今回は教室紹介という形で、ようやく工事が終わったばかりの新カイチ予備校諸口校とカイクベ諸口教室の複合教室、なんと70坪の大きな新教室の紹介をさせていただきます。

## カイチ予備校諸口校

カイチ予備校は蒲生校からスタートしました。開校後7年が経ち蒲生校は120名の生徒が所属し今年度は70名が大学受験に挑んでいます。合格実績も年々伸び、多くの生徒達が国立大や関関同立大を目指して頑張っています。

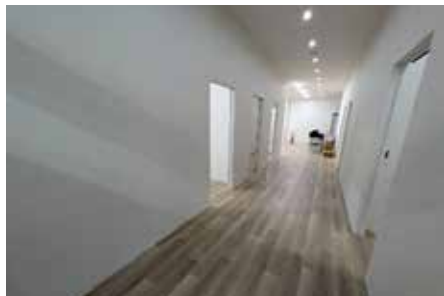
諸口生にとっては蒲生予備校が距離的に遠いこともあり、2年前より諸口6丁目のカイチ予備校諸口校を開校し、1年目は高1のみ2年目は高1・2のみと少しずつ対象学年を増やし、3年目になる今年度、本格的な予備校として諸口5丁目に移転開校することになりました。

指導コースは、集団指導と個別指導の2コースを設置します。集団指導の講師陣としましては、灘中学・高校での指導経験があり、東大理Ⅲ合格者や数学オリンピックのメダリストなど多くの優秀な生徒を指導してきた田中秀彦先生、全国模試の数学編集を務めた経験もあるトップ講師である対島先生、医学部受験予備校や難関大専門予備校での指導を専門とする英語指導のスペシャリストである田中義治先生、そして我々が諸口教室長高木先生も授業を担当します。



▲地元密着とは思えない講師陣で指導します!

大学生チューターは元カイチ生。全員が国立大生ですので、気軽に受験の様々な悩みを相談することができます。もちろん高木先生や、山本先生の面談も実施します。



▲今から机や椅子を入れて教室の中を仕上げます

教室は講義室4教室と休憩室(食事室)と講師控室、そして49席もの自習ブースが並ぶ自習室からなっています。休憩室(食事室)と自習ブースの設置は、高木教室長の「講師控室は狭くてもいいので、受験生達に少しでもいい環境で勉強させてあげたい」という希望を実現しました。赤本を始め参考書や問題集なども充実させていく予定です。

カイチ予備校は、幼児から大学受験を一貫指導しているカイチから東大・京大生を出すという思いから始まりました。エニグマではすでに、医学部合格や京大合格者が出ていますが、カイチ予備

校はこれからです。諸口のこの場所から東大・京大合格を出していきたいと思います。

## 開智個別指導専科「カイクベ」



▲蒲生カイクベの教室。諸口カイクベもこんなオシャンティーに仕上げます。

「カイクベ」は昨年、蒲生4丁目に最初の教室ができました。カイチに併設された個別指導ではなく、個別指導専門の教室を作ろうということで開講した教室で指導は1:2の70分授業で、授業形態だけでなく教室のレイアウトやデザインも、ゆったり自分のペースで学習できるよう工夫をしています。諸口教室長の高木先生もカイクベに初めて見学に来た時には「カイチにこんなオシャンティーな教室ができるなんて!」(オシャンティー?きつとオシャレという意味?!)と言っていました。

通常個別指導では費用がかかりすぎて2教科の受講に限界ですが「カイクベ」ではタブレットでの質の高い動画指導を組み合わせることによって、2教科の受講費用で5教科のフォローができるように工夫されています。また、通常授業においても毎回クリアテストを実施、不合格生は居残りや特訓部屋でフォローする仕組みで、学習に苦手意識がある生徒でも安心して通える仕組みにしています。もちろん、教室もこれから高木先生の希望通り「オシャンティー」にしていきます。担当する先生達は元カイチ生の先生達。空間はオシャンティーかもしれませんが、指導は熱く厳しくやっていきます!

カイクベは集団のカイチとはまた違った魅力ある教室にしていきたいと思います。

スタッフ一度、頑張って指導して参りますので新カイチ予備校諸口校とカイクベ諸口教室を宜しくお願いいたします。

## Education

## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



## 冬の合宿、こぼれ話

坪田 陽一

昨年末の12月28日~30日、再び中3生を引き連れ合宿に行ってきました!

参加した生徒の皆さん、お疲れ様でした。そして参加を後押ししてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございます。最初と最後の模試で合否判定、各教科のスペシャリストによる特訓授業、自己申告書の添削。最後の塾長の熱い講演。さらにおいしい食事、お風呂、至れり尽くせりの宿泊施設…手前味噌ではありますが、受験直前の生徒達にとって刺激的でとてもよい2泊3日になったのではと思っています。また私どもスタッフにとっても、普段接する機会のない他教室の生徒達と触れ合える、とても良い経験となりました。

今回は、合宿についての裏話や私自身が感じたことを書いておこうと思います。

## 冬期合宿スタートまでのアレコレ

夏の合宿終了後、生徒達のアンケートに目を通して、ちらほら「冬もやって欲しい!」との要望が。ただその時は「イヤイヤイヤ…(年末忙しいし、各ご家庭でも帰省とか予定があるだろうし、冬期講習でお金がかかるのにこれ以上いただくのも気が引けるし、…正直しんどい)」と、苦笑いしながら読んだのを覚えています。

しかしながら、当塾の合格実績を牽引する高木文理学科主任の「いや、生徒達に後悔させたくないんで」という並々ならぬ熱意により、実施が決定!そして、年末の忙しい時期なので、「50名参加してくれたら御の字」と思っていたところ、ふたを開けてみれば80名越え!これには私達も驚愕です。あわてて川西先生がホテル側と交渉し、何とか部屋を追加で確保しました。一時は先生の部屋が確保できないかも、というので「川西先生は外のテントで」「小幡先生には研修室で寝てもらおう」等の案も半ば真面目に検討しました(笑)。そうならなくて本当に良かったです。

## 初日のトラブル

一日目、ホテルフクラシアに到着。生徒達を3つの研修室に分け、1日模試を始めます、というタイミングで、「模試のリズニングCDを教室に忘れてきた!」というミスが発覚。ただ、幸いにも英語は3科目目、すぐに電車で教室までとりに戻れば間に合う、ということで何とか対処ができました。

ところが、始めてしばらくして、今度は「理科社会の模試の問題が印刷できていない!」という、これまたあり得ないミスに気づきました。さすがにマズイ、と一時は顔面蒼白になりましたが、幸いにも各教室はま

だ冬期講習中、急いで小幡先生に連絡し、原本をデータで送信してもらい、ホテルのコピー機で印刷して何とか間に合わせる事ができました。もしかしたら生徒の皆さんの中にも「あれ、何か先生達バタバタしてるな」と感じていた人がいたかもしれませんね。

一応言い訳させてもらえるなら、出発直前まで冬期講習会で、午前夜まで授業に入っていたため、直前の細かい確認がほとんどできなかったことが原因です。幸いにもスタッフ総出で対処して事無きを得ましたが、これを教訓に、来年度は段取りよく、余裕をもっていきたいと思っています。

## 自己申告書に涙

夜の学習時間、「アドミッションポリシーに沿って自己申告書を仕上げよう」という時間をとりました。ここで少し高校入試制度について説明を。「アドミッションポリシー」とは各高校の求める生徒像が書かれたもので、「自己申告書」は、「中学校3年間で何を学んだか、またそれを高校生活でどのように生かすか」というテーマで作文を書き、志望する高校に提出するものです。入試本番の点数がボーダーゾーンの生徒達については、この申告書の中身を見て、高校側が求める生徒像に合致している者を優先的に合格とする、という制度になっています。合格の可能性を少しでも上げる為、これはしっかりと記述する必要がありますが、ギリギリまで書かず、学校に急かされて口々に添削しないまま提出してしまう子も。そこでこの合宿の機会に、先生達にアドバイスを受けながらきっちり仕上げる時間を設けました。

私も十数人の自己申告書に目を通してアドバイスをしましたが、それぞれが中学3年間でしてきたことを書き出し、またそれを志望校のアドミッションポリシーにどう結びつけるか、みんな苦心しつつも一生懸命まとめていました。中でも高殿教室の君のものは見事!文章も独自のスタイルを貫きつつ、学校側に「この子は入れたい!」と思わせるような内容で、印象にも残る、素晴らしい仕上がりました。

また、諸口教室のある生徒の申告書を読んだ際には、思わず泣きそうになりました。実は私が小学低学年のバスケットボールから見ていた生徒で、当時は本当に手がかかる(すぐ怒ったりすねたりする)子だったので、行く末が心配でした。それが、自分を冷静に見つめ客観的に分析して書いている「夢を語り、その為に難関校にチャレンジしようとしている!」「大人になつたなあ…」と感動してしまいました。

「そりゃあ成長するのは当たり前でしょ、十年近く経つんだから」なんてツッコミが入りそうですが、でも

その「当たり前」を目の当たりにすると、何かグッときてしまいます。彼がここまで、彼なりにもがいて自分を変えてきた、その歩みをつい想像してしまうのです。「人は成長する」ということに感動できる。またそれに百分の一、千分の一でも貢献できたかも、と思えるのも嬉しい。先生という仕事の醍醐味を感じました。

## 塾長の本気の授業

最終日、満を持して高木塾長が登場です。「受験のその向こう」というタイトルで話していただきました。内容は、先月号のGrowingに塾長自らまとめております。復習すると、

「不安を感じるの、真剣に目標を目指しているから。やるべき課題を見つけ、周りを見ずに粛々と進めるべし。歩みを止めてはいけない」「努力には価値がある。もがくからこそ、自分の能力やその磨き方に気づける。自分と向き合い、克つことで人格が高まる。本当の喜びは努力の先にしかない」「目標は紙に書くことで達成率が高まる。目標に志一世のため人のために何を成すかーを足すことで、それが夢になる。可能性の塊の皆さんには、夢を持つ素敵な大人になってほしい」といった内容です。ただ、文章にするとどうしても硬い感じになってしまうのが残念です。実際は、冒頭から生徒に語りかけ、巻き込みつつ、爆笑あり感動ありのあっという間の30分でした。あの熱気を文章でお伝え出来ないのがもどかしい。最近では、カイチの中でも生徒達が塾長の話を直接聞くという機会がなかなかないので、今回参加した生徒達は本当に貴重な話を聞けたと思います。また、我々スタッフにとっても、塾長の本気の授業を生で見える機会がほぼないので、得難い経験でした。経営とか難しいことを語っている塾長より、生徒に対して熱く語る塾長の方がイキイキしていて素敵だなあと、失礼ながら思ってしまった次第です。

合宿のラスト、私がしゃしゃり出て、エイエイオー的なことをして締めました。何かありきたりなことを叫んだ気がしますが、あまり覚えていません。ただ、ホテルから見送った際、みんなイイ顔をしていたのはよく覚えています。

努力が報われるとは限らない、残酷ではありますが真実です。でも決して無駄ではない、それもホントのことです。参加した皆さんの合格、そしてその先の幸せを心より願っております。

